



最近の出来事などから「いかがなものか」と感じている事を三点お知らせします。

一点目は「パナマ文書」、「タックスヘイブン（租税回避地）」の報道がなされています。内容は、各国の企業、政治家、政治家の親戚、富豪が莫大な利益を上げながら、税金を逃れるために書類の操作でパナマに会社をつくり、合法的に節税を図っているとのことでした。法律に違反せず節税をしているので、問題ないとの文言もありました。法律や条例等に基づいて、町民の皆さんに税金や保険料、使用料など様々な形で負担をお願いし、生活が苦しい中でも納めていただいている一方で、お金が沢山あるにも関わらず、法律に守られて税金の納付を逃れていると思うと「いかがなものか」と強く感じています。また、東京都知事自身の政治資金の不透明な使途や海外出張、別荘の利用など東京都の予算の使い方について

町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利

でも様々な意見が寄せられています。改めて、町政執行にあたり町民の皆さんから納めていただいたお金の使い方について、「受益と負担」「公平と公正」「富の再配分」、「使途の透明性」など神経を使うところです。

二点目は三菱自動車の燃費データ不正問題です。技術陣の日々の努力が思った通りの結果が出せないでいるときに、激しい競争を生き残るための焦りから、不正に手を染めたのではと思うと「いかがなものか」と考えてしまいます。結果、会社への信用が無くなり、全てが立ち行かなくなり、本社はもとより関連会社の従業員や地域経済など、各方面に迷惑をかける事になっているようです。私も町行政（役場）も失敗があり、町民の皆さんに迷惑をおかけすることもありますが、町民の皆さんとの間に「不信」だけは生まないよう、一層の努力が必要と感じております。

三点目は、雪解けとともにあちこちにゴミが見受けられ、子どもたちの通学路や遊び場などに捨てられていたりもします。マナーを守る事ができない人の捨てたゴミが、放置されている状況を見た時には「いかがなものか」と強く感じています。こうした状況を子供たちが日常的に見ていると、大人になってもこれが当たり前と感じる、常識のない大人になるのではと思っています。そうした中、誰かが捨てたかも知れないゴミを拾い、処理をされている町民の方を見ました。少しでもきれいな町にするため、また、子どもたちの常識を育てるためにも、みなさんのご協力をお願いします。

第15回 しんとく新そば祭り 併催

第22回 日本そば博覧会 in 十勝新得町

平成28年9月19日(日)～9月25日(日)
新得町保健福祉センター「なごみ」前駐車場 他



9月19日から一週間 まちは「そば」一色に

9月19日から25日までの7日間の日程で開催される「日本そば博覧会 in 十勝新得町」24、25日に「しんとく新そば祭り」が併催されます。開催まであと3ヶ月となり、イベントスケジュールも決まってきました。19日からの「そばウィーク」には、まちが「そば」一色になります。

19日(月)

そば博記念講演会

そば好きで知られる俳優の村田雄浩さんが講演します。村田さんは、2005年にNHKで放送されたドラマ「ハルとナツ届かなった手紙」にハルとナツの父親役で出演。そのドラマの撮影でトムラウシを訪れています。どんな話が聴けるのか楽しみです。

全国から取り寄せたそばの試食会
そばは縄文時代後期に、中国から長崎県対馬に初めて伝わったとされています。日本そばの故郷である対馬の対州そばなど全国各地のそば粉で打ったそばの試食会が行われます。原種に近い対州そばを味わってみては。

20日(火)

そばの施設見学バスツアー

日頃見ることができない、そばの生産から加工までを見学します

21日(水)

そばバル「ソバル」(仮称)

いろいろなお店に行きたいけどちよつと食べて飲んで、すぐ帰るのは「気まずい・・・」。そんな悩みを解消するのがこのバル。参加飲食店を「はしご」するのが基本スタイル。3000円のチケットでお好きな4店を回れます(各店でフード一品+ドリンク一品付き)。さらに特典として町営浴場の入浴券もついてます。

22日(木)

子ども向けそば打ち体験教室

そばマリアージュ料理教室

北海道ホテル総料理長の工藤一幸さんを講師に迎え、そばと合うおいしい一品を学びましょう。

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介します
一緒に
歴史の散歩に
出掛けましょう
No. 9

急行「まりも号」事件

昭和26年5月17日、国鉄根室本線釧路駅発函館駅行きの上り急行四列車(愛称「まりも号」)は、470人の旅客を乗せて新得駅を夜の午前1時5分に落合駅へ向けて出発しました。新内駅手前1・5も付近の上新内鉄橋に差しかかった午前1時15分、列車は激しい衝撃とともに先頭の機関車が左側に脱線、鉄橋下に転覆し、2両目のテンダ(石炭と水を積んだ車両)も鉄橋からずり落ちて垂れ下がるという事故になりました。

当時のまりも号は、機関車2両、荷物車2両、客車6両の10両編成で、曾我部機関士は軽傷を負ったものの、幸い乗客は全員無事でした。事故発生時の通報を受けた自治体警察の新得町警察署(小畑善弥署長)は直ちに関係方面の応援を求めながら捜査にあたり、左右のレールの継ぎ目板4枚を金切りの



急行「まりも号」事件現場
(昭和26年5月17日)

こで切断し、白樺の棒をレールの下に差し込んで、レールを4センチメートル食い違わせたことが、脱線の原因であることが判明しました。戦後の下山、三鷹、松川の国鉄三大事件が発生したばかりであり、昭和23年には町内を中心に狩勝トンネル争議もあつたので、捜査は広範囲にわたりました。容疑者600人の調査が行われ、鉄道知識を持った思想関係者説や、占領軍の謀略説もつわさとして流されましたが、決め手がなく、遂に迷宮入りとなりました。

この事件がきっかけとなり、自治体警察を広域の北海道警察へ移管させる機運が高まってきました。

短歌

新得短歌会

わが町に似てると汝は長野ゆく
オルガン残こし心のこして
中井由利子

散る桜川面をうめて花いかだ
水面をてらす上弦の月
荒木 風月

純粹さ遙か彼方に忘れ来し
水仙の花清しに触れつ
小関 白潮

あだ名草ころ有り氣に一歳を
待てと契の花びら落とす
樋口かおり

またひとりかはりし人去り逝きし
たんぼほ一面野を飾りくれ
奇藤美代子

職ひきてランチの誘ひいそいそと
些細なるかなこの悦びぞ
小野 洋子

故郷の魅力あふれる新得音頭
明日へつなげば人をもつたぐ
岡田 徳彦

樂しげな声に思わず誘われて
花びらふわり日だまり目指して
岡部 哲也

俳句

新得俳句同好会

虹かかる十勝の大河を片足に
片桐 波月

カツコウが鳴いたと記せり農日記
八木 育子

杖持てば片手拝みの山開き
月井 愁峰

春祭り子等かいだんを我先に
奇藤 青苔

あの樹とも違う風来て花吹雪
高橋 民女

春嵐ハウスのシート白き飛ぶ
大崎かずお

長旅で来しオオジシギタ閣に
袴田ゆき男

遠足の笛に弾ける園児帽
中島 土方